

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可・否)

区 分	1.森づくり 4.森と暮らし	2.森の恵み 5.森の文化財	3.森と技 6.森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 信仰	(ふりがな) しんこう	
地域独特の呼び方	—		
タイトル	権現さま		
伝承地域	双葉郡浪江町		
由 来	<small>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで(いつまで)伝えられたか)</small> 相双地方には、土をもって塚を築き祭場とした、「東照大権現」「大塚(大塚)権現」と呼ばれる小祠が存在する。		
内 容	<small>(内容とともに、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</small> 双葉郡浪江町苧宿の集落の北方に「お壇」と称する小高い丘があり、その山頂には土壇が築かれ、小祠が祭られており、人びとはその祠を「権現さま」、「お壇」と呼んでいる。 山頂からは苧宿の集落と周辺の田圃を一望することができる。このような立地条件は、阿武隈山地に多く見られる「ハヤマ」と同様である。 「お壇」は徳川家康の遺髪を祭ったものといい、集落の守り神で、祭りでは「豊作」と「嵐除け」を祈願したという。 祭日は旧暦八月十五日で、その前夜に夜籠りが行われる。十四日の宵に、宿元(社守)では床の間に「東照大神」の掛け軸をかけ、酒、塩などの神饌と榊、萩、薄を飾る。集落の組長が宿に集まり、御神酒、供え物を持参して「お壇」に参拝し、戻って宿元で作った馳走で直会をする。 「東照権現」の呼称は、近世初期盛況であった徳川家康を祭祀する東照権現信仰と出羽の湯殿権現信仰が習合したものであり、徳川家康が守護神として祀られているのではなく、相双地方にみられる「作神」であるハヤマ信仰の一形態であり、「権現さま」の祭りは作の豊穰を感謝する新嘗祭のひとつの形とみられている。		
文化財等の指定状況			
問い合わせ先	(出典)『浪江町史 別巻Ⅱ 浪江の民俗』 浪江町教育委員会		

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名 (ふりがな)		※顔写真ありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。(貼りつけずに名前がわかるようにして同封ください。)
	性別・年齢	男 ・ 女	
	生年月日	明治・大正・昭和・平成 年生	
	住所・電話	〒 電話	
団体	職業		
	団体名 (ふりがな)		
	代表者氏名 (ふりがな)		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日	
	問い合わせ先		電話

フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード

「お壇」に祀られる東照大権現



(浪江町教育委員会)

※活動の様子が分かる資料等があればコピーを1部ご恵与ください。